



あいりん労働福祉センター

「見せモノとちやうぞ！」

その言葉は私の奥底で見過ごされていた罪の意識を明るく照らし出し、二度と目を逸らすことを許さなかった。

# 0: 背景

## 0.1. 動機

出身地である大阪市西成区の金ヶ崎を敷地にすると決め、NPOのボランティアをしたり現地の人たちにインタビューをしたりといった活動を続けていた。しかし調査を続ける中でどこか後ろめたさや違和感を感じている自分に気づいた。その正体は、自分の好奇心や研究のために一方的に見たり聞いたり知ったりといった、スラムツーリズムにも似た搾取に対する罪悪感であった。自己のアイデンティティ形成の過程で金ヶ崎に対するスティグマを一部内面化してきたこともあり、現地調査に際しても自分が西成出身であることを強調してきたが、フィールドワークを続ける中で、自分は西成区民であっても金ヶ崎におけるいわゆる当事者ではないということを強く自覚した。

金ヶ崎は、男性単身労働者が人口の多くを占めるとはいっても、様々な背景を持った多様な人々が生活する・訪れる地域であり、全てを考慮してひとつつの答えを出すことは現実的に不可能、だからといって何かひとつを選ぶということもしたくなかった。これ以降、金ヶ崎の人々を対象とする無責任な提案はできなくなり、金ヶ崎に対して誠実であるた

# 西成区出身という出自を笠に着て、金ヶ崎でスラムツーリズム的態度を取ってきた自分への批判

めに、自分が当事者であるといえる範囲でできることを考えるしかなくなった。

金ヶ崎において自分がとれる立場は①(金ヶ崎の外の)西成区民、②金ヶ崎を訪れる外部の人間、のいずれかである。後者の立場をとり、金ヶ崎の中での自分の行為、つまり、スラムツーリズム的な搾取に対する批判を卒業設計のテーマとすることにした。

### 金ヶ崎

全国最大の日雇い市場があると言われる街。大阪市西成区にあり、ミナミの歓楽街から2kmほど隣の面積0.62km<sup>2</sup>のエリア。市はあいりん地区の名称を用いている。



### スラムツーリズム

貧困地区の訪問によって、その社会や文化を体験的に理解することを目的とした観光のこと。好奇心をはじめ、娯楽や教育などの動機があるとされているが、住民の生活が見世物にされ商品化されることをめぐり、倫理的な観点から批判がなされてきた。

### スラムクリアランス

スラム化した居住地区を行政や公共団体が主体となって再開発し、低家賃の公共住宅をスラム住民に提供する一連の事業を指す。主にスクラップ・アンド・ビルの手法が用いられ、地区的土地を買収し、不良住宅を撤去、そこに公共賃貸住宅を建設する。

## 0.2. 参考文献

3冊の参考文献について、「まなざし」という概念に基づいて整理する。「まなざし」とは、哲学、批判理論、美学、メディア研究、芸術批評、社会学、精神分析学などで、見ること、見られることを指す言葉であり、単に目で見るということのみならず、対象となるものをどのように認識するのかに関する特殊な意味合いをこめて用いられる。見ることを人間関係における極めて重要な要素と見なし、他者を見ることによって主体と客体という関係が成立すると考える場合、ここで主体が客体に向ける目が「まなざし」と呼ばれる。

### 1. ミシェル・フーコー (1975) 『監獄の誕生』

#### 監獄の誕生

ミシェル・フーコーは権力とまなざしに関する議論に大きな影響をあたえた。フーコーが提示した3つの主な概念として、パノプティシズム、知／権力、生権力があり、これらは全て監視システムの中で自己を規制することにかかわっている。つまり、誰が、あるいは何が自分を見ているのか直接見ることができなくても、常に見られているという信念のもとで人が自らの行動を修正するということである。この監視は、実在しているがしていかうが、存在の可能性さえあれば人に自己を規制させる効果を及ぼす。この著作でも、権力装置としての監獄や学校における監視や自己規制など、さまざまな規律・訓練 (discipline) のメカニズムと権力関係を明確にするために見ることと見られることの問題を探求し

ており、「まなざし」の権力論を扱った代表的な書物のひとつと見なされている。フーコーはこの著作において、ジェレミー・ベンサムが提案した、中心にある監視塔から囚人が監視することができるが、囚人のほうからは自分たちが監視されているかどうか確実に見ることができない装置であるパノプティコンをとりあげ、これを「見る—見られる」という一対の事態を切離す機械仕掛けであり、「権力を自動的なものにし、権力を没個人化する」ものだと述べている。

### 2. エドワード・サイード (1978) 『オリエンタリズム』

#### エドワード・サイード (1978) 『オリエンタリズム』

エドワード・サイードが最初に「オリエンタリズム」として言及した、ポストコロニアル理論におけるまなざしは、大国である宗主国が植民地化した国々へと広げた関係を説明するために用いられる。植民地化されたものを「他者」の位置に置くことで、植民者のアイデンティティを強力な征服者として確実に形作ることができる。ポストコロニアル理論におけるまなざしは「主体と客体の関係を確実にする機能」を持っている。サイードは、西洋列強のオリエンタリズムに基づいた学問的・実践的な知識が、権力と密接に関連しながら東洋に対する西洋の支配関係をもたらしていると論じ、オリエンタリズムを、東洋に対する西洋の思考様式であると同時に、支配の様式でもあると見なした。すなわち「知」と「力」が結合して、オリエンタリズムは支配の様式にもなる。

### 3. ジョン・アーリ, ヨーナス・ラースン (1990) 『観光のまなざし』



アーリとラースンはこの著作においてフーコーを引用し、「まなざし」という概念で言いたいことは、モノ・コトを見るということは、実は習得された能力であって、純粹で無垢な目などはありえないということである」と述べ、人々は「社会的に構成され制度化され」た「まなざし」を観光で遭遇したものに対して向けており、この「まなざし」が階級やジェンダー、出身地域、年齢、受けた教育などさまざまな要因によって規定されていることを指摘している。アーリは、「観光とは、日常から離れた景色、風景、町並みなどに対してまなざしを投げかけること」であり、近代人が身につけたのは、対象を可視的世界の客体としてのみ理解する「鑑識眼」という「まなざし」であったと指摘する。さらに、近代産業社会において、大量かつ高速な人・モノの長距離輸送が発達することで、ツーリストの日常生活空間と観光地とが空間的に断絶したものとして経験されるようになった。こうした空間の断絶によって、観光地の景観を一方向的かつ客観的に消費する対象として捉える視線が広く生まれることになったのである。この視線は、対象とは別の地平から「まなざし」を投げかける事で成立するものであり、対象に一方的な意味づけを行うものであった。

これを踏まえ、スラムツーリズムにおける「まなざし」という概念に注目し、その批判のために「見る」という行為の暴力性を提示することにした。

## 0.3. 金ヶ崎の歴史と現在

金ヶ崎とは1922年まで摂津国・大阪府西成郡今宮村に存在した地名のこと。および現在においてその一帯を指す地域通称。現在では主にJR西日本の大和路線(関西本線)の線路以南の西成区萩之茶屋1丁目・萩之茶屋2丁目の各一部を指す。1966年以降、あいりん地区という呼称も与えられる。

19世紀末のスラムクリアランスによって、江戸時代初期の旅籠に端を発する長町(現在の日本橋)の木賃宿が金ヶ崎に移転し、金ヶ崎はスラム街となった。戦後、空襲で焼け野原となった金ヶ崎に戦災被災者が集まり簡易宿所やバラックに居を構えた。1960年代に入ると暴動が起きるようになり(1961年第一次暴動)、家族世帯が地域外の公営住宅へ移り住ん

でいく一方で、1970年の大阪万博に向けて全国から単身男性が集まつた。1970年にはあいりん総合センターが開設され、住民の大多数が日雇い労働者で構成される町へと変化していく。好調な景気と労働条件の改善によって求人は増え続け、簡易宿所は高層化、個室化した。1990年代、バブルが崩壊すると求人が激減し、労働者たちが路上で生活する様子が見られるようになった。その後、適切な社会保障を求めるNPOなどが多く生まれ、生活保護を受けてアパートで一人暮らしをする高齢の単身男性が増えた。簡易宿所も福祉アパートや旅行者向けの宿へと営業形態を変更し、現在は海外からの旅行者も多く訪れるようになっている。

まなざしの権力論



左上: 金ヶ崎のかつての木賃宿 (1925年4月) / 右上: 金ヶ崎のかつての木賃宿 (1925年4月) / 右中: 労働者向けの商店で賃わう金ヶ崎 (1938年3月) / 右下: 再開発事業によって違法露店やバラックがなくなった現在の金ヶ崎 (2023年10月) / 中央: 金ヶ崎の航空写真



# 1: テーマ

## 建築によって「見る」という行為の暴力性を提示する

### 1.1. 目的

スラムツーリズムへの批判を行う

→スラムツーリズムにおける「まなざし」の概念に注目し、「見る」という行為の暴力性を提示する

→建築によって、「見る」という行為が主体に返ってくるような操作を行う

→主体が見ようとするほど見られる空間をつくる

釜ヶ崎における自分のふるまいを反省し、スラムツーリズムへの批判をテーマとした。その際、社会学や精神分析学で用いられる「まなざし」という概念に注目し、「見る」ことを人間関係における特に重

要な要素とみなして、スラムツーリズムにおける「まなざし」の暴力性を提示することにした。「見る」という行為がその暴力性とともに主体に返っていくような操作を建築

それが達成されると考え、主体が見ようとするほど見られる空間というものをつくり、それによって建築を構成することを試みた。

### 1.2. 敷地とその意義

1970 年の竣工以降、約半世紀にわたり労働者を支えてきたあいりん総合センターはこの街のシンボル的な複合施設であり、労働福祉に関する様々な課題に対応してきた。センターの主な機能は、事業者と労働者間の求人求職活動が行われる日雇い労働市場（寄場）であった。早朝 5 時に 1 階のシャッターが開けられ、日雇労働者が集まり、関西圏やそれ以外の地域の会社の者により、土工や解体業などの仕事の求人活動が行われた。かつて建物の前には早朝から大勢の労働者が集い、現場に向かうワンボックスカーもまた多く並んだ。その日の仕事につけなかった者たちの憩いの場にもなっていた。ほかにも、労働者のための食堂やシャワールーム、職業紹介や労災・労働相談を提供する

労働者による抵抗と占拠  
病院以外のスペースについては 2019 年 3 月 31 日をもって閉鎖されることとなったが、労働者側の抵抗によりシャッターを閉める事が出来ず、同年 4 月 24 日の機動隊を投入した大掛かりな労働者等の強制排除まで電気を遮断したままシャッターが開けられていた。建物の閉鎖後も數十人程度の路上生活者が「新施設で休息場所が失われる」として建物を占拠し、現在まで継続している。

## 労働者の居場所の閉鎖・建替

## 行政による再開発事業への批判

2013 年から大阪府と大阪市の協働により、西成特区構想という再開発構想に基づいた事業が進められてきた。これは大阪市西成区を特区指定し、区が抱える諸問題の解決に向けた施策を推進するものである。日雇い労働者向けの簡易宿泊所や寄場が多数存在する「あいりん地区」を擁する西成区は、生活保護受給者や野宿核対策、観光客誘致などの施

策が推進されてきているが、その施策のひとつとしてスラムツーリズムを推し進めるような取り組みが行われている。これに対する批判のため、渦中の問題であるあいりん総合センター建て替えの一案としてこれを提示することで、事業の推進によって生まれる問題の存在を示したい。



## あいりん総合センター

(大阪府大阪市西成区  
萩之茶屋 1 丁目 11-15)

1970 年から事業者と労働者間の求人求職活動が行われる日雇い労働市場として機能し、食堂やシャワールーム、西成労働福祉センター、職業安定所、病院と市営住宅が入居していたが、老朽化を理由に 2019 年に閉鎖。行政による再開発事業の一環として建て替えが予定されているが、反対する路上生活者たちに未だ占拠されている。



左上：あいりん総合センターを、東側にある簡易宿泊所屋上から見下ろした図

上：北側前面道路から見たあいりん総合センター

左：あいりん総合センター前で野宿する路上生活者たち



(大阪市西成区 2022 年 7 月筆者撮影)

### 西成特区構想

西成区の活性化とイメージアップのため、大阪市長だった橋下徹氏が提唱した構想。野宿生活者の雇用創出や生活向上、子育て世代を呼び込む優遇策などが掲げられ、特別予算をつけて 2013 年度から開始した。市は府や府警とも連携し、治安の改善

にも取り組み、釜ヶ崎を中心に薬物使用やゴミの不法投棄の根絶を目指した。しかし、衛生環境や治安が向上しても、いまだ数百人規模の野宿生活者がこの地域で極限的な暮らしを余儀なくされていることや、野宿生活から脱却して安定した居所を得

たとしても、社会的孤立の問題が解消していないこと、地域の活性化を図ることが結果的にジェントリフィケーションを引き起こし、あいりん地域に暮らし続けてきた人々の生活に負の影響を及ぼしかねないことなどの問題がある。

## 2: 手法

# ”contropticon” という新概念を用いて空間を設計する

CONTROPTICON

見ようとするほど  
見られているよう  
に  
感じる空間の要素

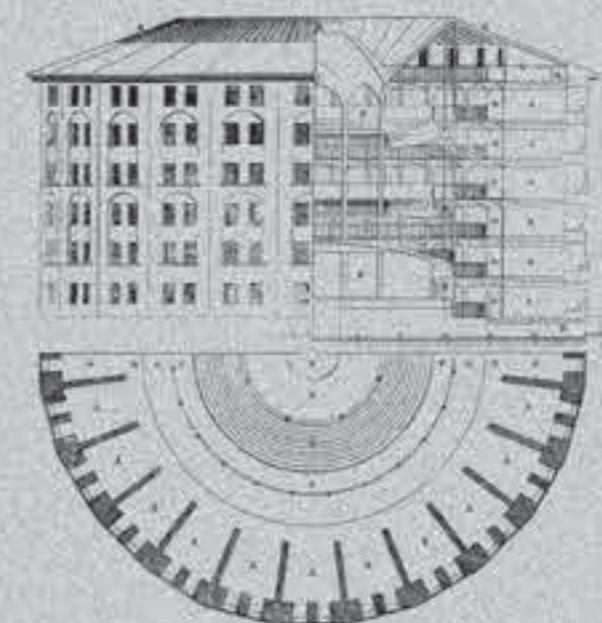


### 2.1. 定義

contropticon の概念はイギリスの哲学者 ジェレミ・ベンサムによる panopticon を元にしている。panopticon はベンサムが 設計した刑務所施設の構想であり、ギリシャ語の pan (見る) と optic (見る)、 optikon (視覚の) を組み合わせたベンサムによる造語とされている。円形に配置された収容者の個室が多層式看守塔に面するよう設計されており、看守の位置か

らはすべての収容者を監視することができた一方で、収容者たちからはお互いの姿や看守が見えず、実際に看守に見られているのかどうかすらわからなかった。つまり、常に見られているように感じるという構造となっていた。一方で contropticon は、ラテン語の contra (逆、抗、反対) を接頭辞とした造語であり、見よ

うとするほど見られているように感じる構造となっている。厳密に言えば、 contropticon は見ようとするほど見られるよう感じる空間の要素である。 contropticon の空間はひとつに定まるものではなく、以下に説明する「見る－見られる関係の考察」と「釜ヶ崎の空間的要素」の組み合わせによって様々な形態として表れ、その集合が見ようとするほど見られているよう感じる空間となる



ベンサムによるパノプティコンの構想図

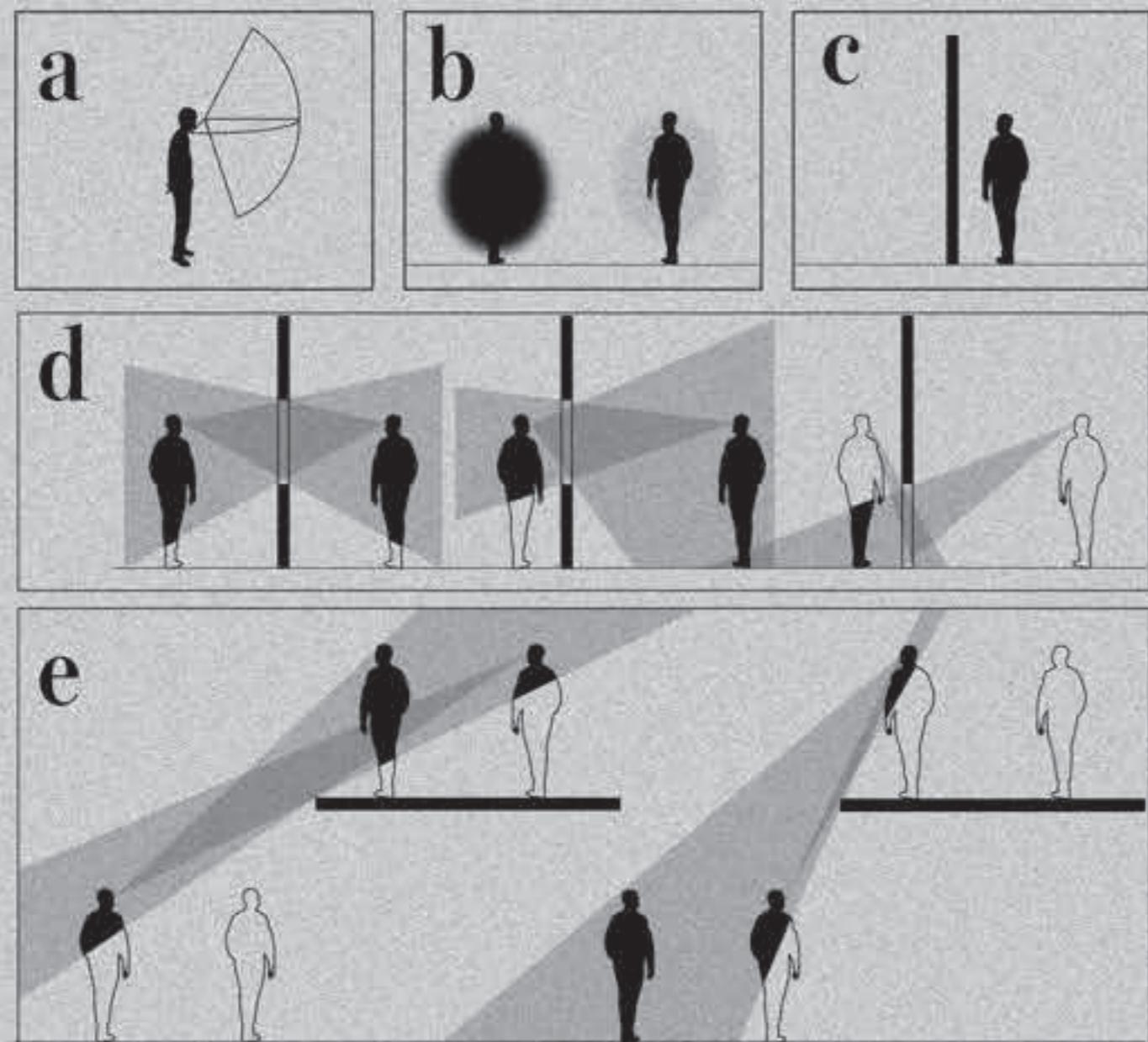
contropticon の集合が見ようとするほど見られる空間となっている  
見る－見られる関係の考察と釜ヶ崎の空間的要素を組み合わせてつくる



### 2.2. 見る－見られる関係の考察

見る－見られるの関係に非対称性が生まれるのは、見る側と見られる側のそれぞれに物理的な条件の違いがあるからである。人間がほかの人間を見るとき、その主体の「見る」という機能は眼の位置や視野角、周囲の明るさなどによって制限される。一方その客体である体は、遮蔽物や暗がりがあると隠れてしまう。これらの非対称性を生む見る－見られる関係に関する考察は以下の a~e の5つになる。

#### 見る－見られる関係の非対称性について



- a. 視野角 上方 60 度以上は死角に入りやすい。  
b. 明暗の差 明から暗は見づらく、逆は見られやすい。  
c. 遮蔽物 (垂直、開口なし) 壁に近いほど見られているように感じない。  
d. 遮蔽物 (垂直、開口あり) 開口に近いほど見やすく、見られにくい。  
e. 遮蔽物 (水平) 縁に近いほど見やすく、見られやすい。

### 2.3. 釜ヶ崎の空間的要素

釜ヶ崎には既に、そこを訪れた人が地元の人々からの視線を感じるという状況がある。釜ヶ崎の都市空間もそれらを助長し、またそのような印象を与えるものとなっている。よって、釜ヶ崎の都市空間から先述の“見ようとするほど見られている気がする空間”を構成する要素を抽出し、これをを利用して contropticon をつくる。



# 3: プログラム

# 見る見られる関係が様々に作用する施設

見ようとするほど見られる作用は、訪れた誰に対しても平等に働き、その主体は決まってない。しかし、見られてることについての感じ方は人によって異なる。その主体が後ろめたく思っていたら抑圧的に感じられ、そうでない場合は安心へと繋がる場合もある。

## 3.1. ゾーニングと機能配置

行政から提示されている条件に沿って、労働ゾーン、多目的広場、福利・にぎわいゾーンの3つに空間を大きく分割した。主に労働に関わる機能を労働ゾーン、その他の機能を福利・にぎわいゾーンに配置し、主な利用者が同じ機能をつなぐ動線を用意した。労働ゾーンは総合事務室から全体を見渡し把握できるような配置とした。中央の多目的広場は様々な機能から見られるような配置としており、寄場として利用される早朝には求人の様子を確認することができて、高い監視性が不正やトラブルなどの抑止につながり、それ以外の時間にはこの場で行われる多様な営みを多くの人が見ることができるように意識した。福利・にぎわいゾーンではほぼ全ての機能から多目的ホールの中が見られるようにし、託児所は見通しが良く、様々な機能から見守られるように配置した。津波などの災害時に大人数を収容することができるシェルターを地上18mの高さに配置し、普段は路上生活者が滞留・定住できる場所とした。

### ●福利・にぎわいゾーン

- 労働やにぎわい機能と相互補完しながら、住民への助けとなる機能や住民に便利な機能などを有する施設を配置する。
- 乗換駅や幹線道路に面しているという「地の利」のポテンシャルを発揮し、地域の新たなイメージを形成することで、来街者を含む多様な人々が訪れ、新たにぎわい創出に資する施設を配置する。
- 多様かつ柔軟な利活用を可能とすることで、土地の有効利用を促進するとともに、防災機能を備え、非常時の対応も可能とするような「多目的オープンスペース」の確保に努める。



### ●融合空間

- 労働ゾーンの機能と福利・にぎわいゾーンの機能を結びつけるため、両ゾーンの間に、両ゾーンの利用者をはじめとする多様な主体が訪れ、様々な用途に用いることができる多目的広場を導入する。

### ●労働ゾーン

- 西成労働福祉センター・あいりん労働公共職業安定所等の建替えを核にして、機能の拡充等を図ることで、多様な人が安心して暮らせる社会的包摂力を発揮できる労働の拠点とする。

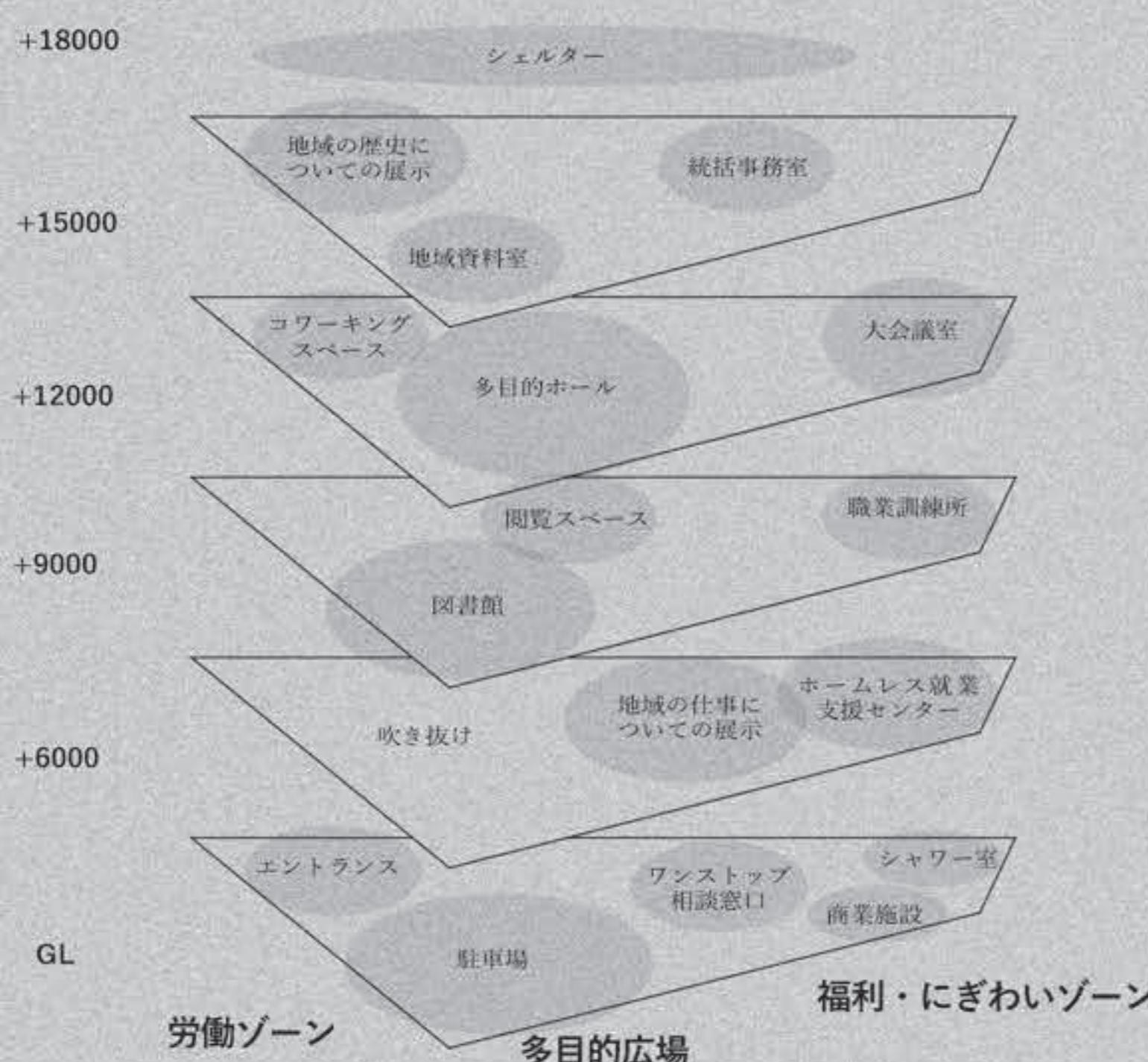
大阪府・大阪市『あいりん総合センター跡地等利活用にかかる基本構想(活用ビジョン)』より抜粋

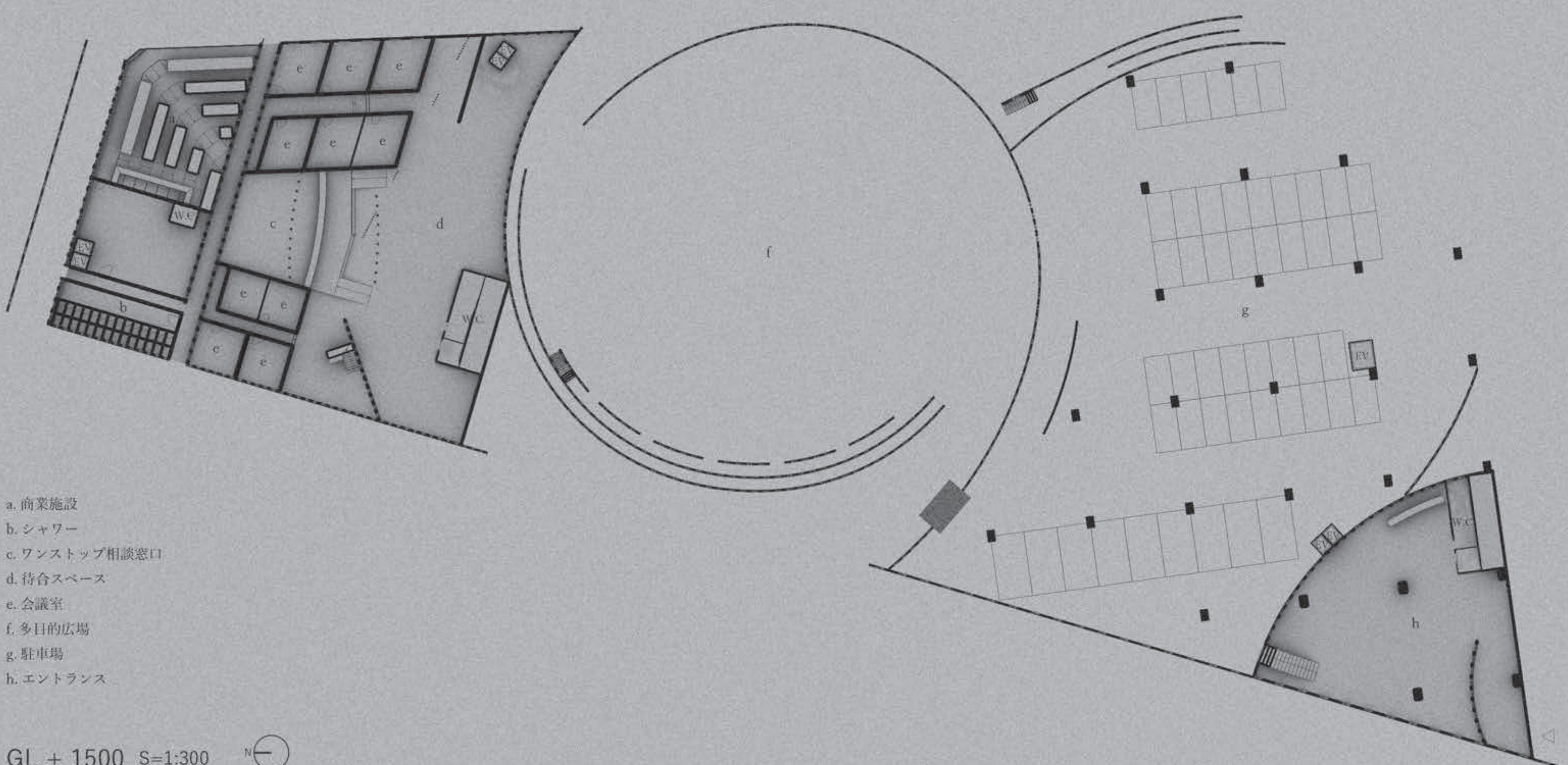
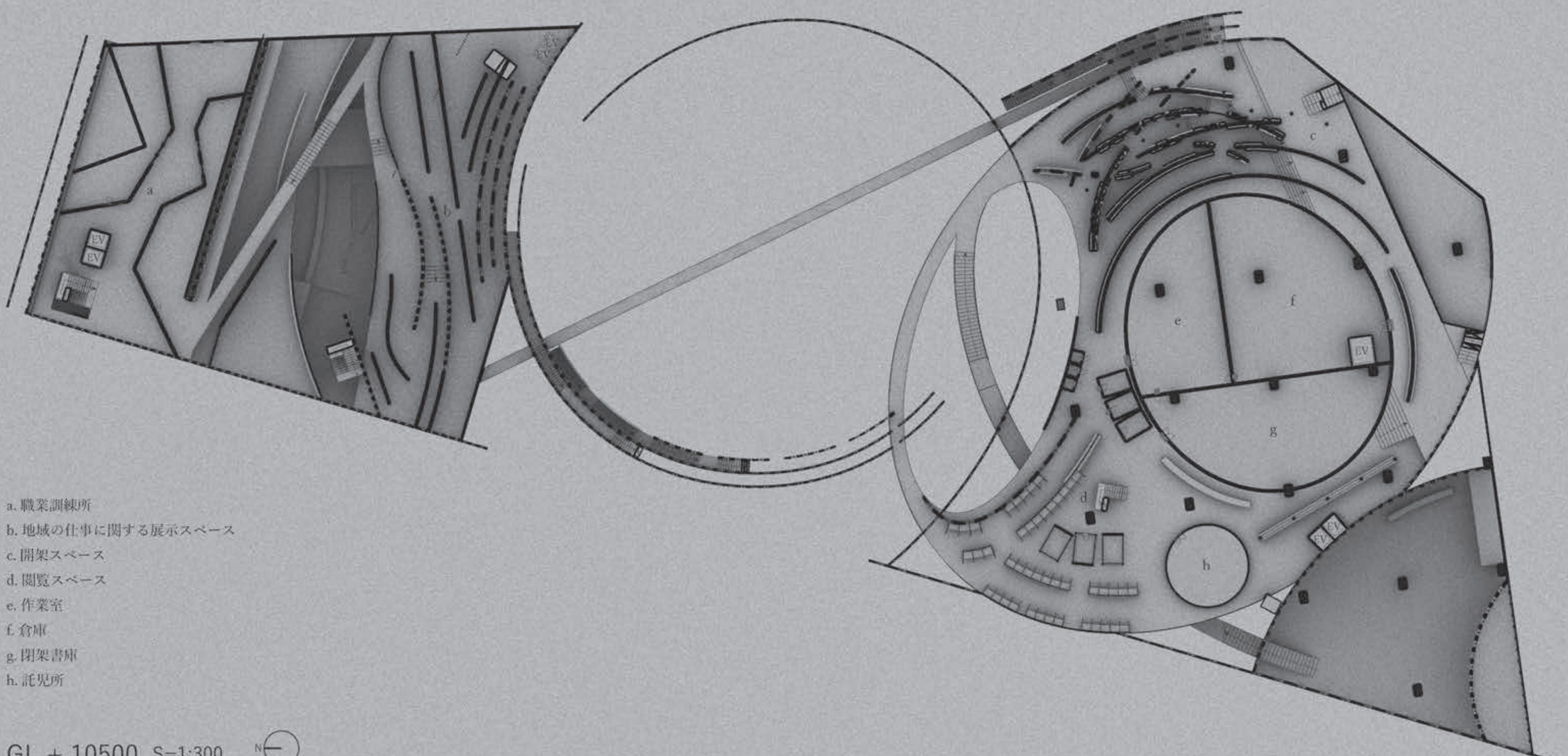
| テーマ1：子ども・子育て関係   | テーマ2：労働施設関係   | テーマ3：就労福祉・健康関係   | テーマ4：駅前活性化・まちづくりハウジング関係  |
|--|---|--|--|
| <p>①学年を問わず利用できる子どもの居場所<br/>&lt;子どもの自己実現を促すチャレンジの場&gt;</p> <p>②技術体験ワークショップ交流機能<br/>&lt;ICT等最先端技術やものづくりが体験できるワークショップを備えた、国際交流・世代間交流の場&gt;</p> <p>③地域の仕事の見える化と地域学習の連携<br/>&lt;建設建築・日雇労働を学ぶ区のハイロットエリア&gt;</p> <p>④ワンストップ相談窓口&lt;子ども・子育て、就労福祉、労働相談、就労・生活支援・専門家を配置&gt;</p> <p>⑤上記機能を促す空間<br/>図書施設、コワーキングスペース、園芸・屋上農園など</p> | <p>①寄場機能&lt;待合機能、高齢者考慮、一体的に自由度が高い空間、一部24時間利用可能な開放的なスペースを確保&gt;</p> <p>②駐車場機能&lt;求人求職活動がスムーズに行われる空間(約50台)／屋根付き駐車場・乗車容易な駐車枠&gt;</p> <p>③ワンストップ相談窓口&lt;高齢者・女性・若者・外國人など多様な相談機能、仕事出し・職場紹介など&gt;⇒一般ハローワークと連携</p> <p>④ホームレス就業支援センターの移設</p> <p>⑤職業訓練(技能講習)機能・「仕事」の見える化<br/>&lt;職人の育成や興味づけのための建設・建築トレーニングセンターまたは西成版キッザニア機能&gt;</p> <p>⑥利用者の福利厚生機能&lt;会議室・シャワー・売店・託児所など&gt;</p> <p>⑦オープンスペース&lt;防災+多目的ホール機能&gt;</p> | <p>①ワンストップ相談窓口の設置<br/>若年就労困難層、障がい者、母子世帯等各ライフステージ対応可能な窓口</p> <p>②会議室</p> <p>③図書施設・コミュニティライブラリー(全世帯向け)</p> <p>④コワーキングスペース</p> <p>各自独立して仕事を行う方々が共有する、事務所・会議室・打ち合わせなどのためのスペース</p> <p>⑤防災機能</p> | <p>①多様な人が集う多目的オープンスペース(地域住民、駅利用者、滞在者、労働者、子ども、若者、アーティストなど)共同利用しやすくするための設備やしつらえの検討⇒柔軟な管理運営が必須</p> <p>⇒駅と跡地のつながりをよくする手法を検討(駅前の動向や広域政策、社会の変化にも注視)</p> <p>②各機能における相互利用を検討(空間的・機能的)</p> <p>③コワーキングスペース、図書館(コミュニティライブラリー)、アーカイブの設置</p> <p>④まちの生活者に対するハウジング(滞留・暫居・定住を意識)⇒他テーマ間連会議で出されたハウジングの展開</p> |

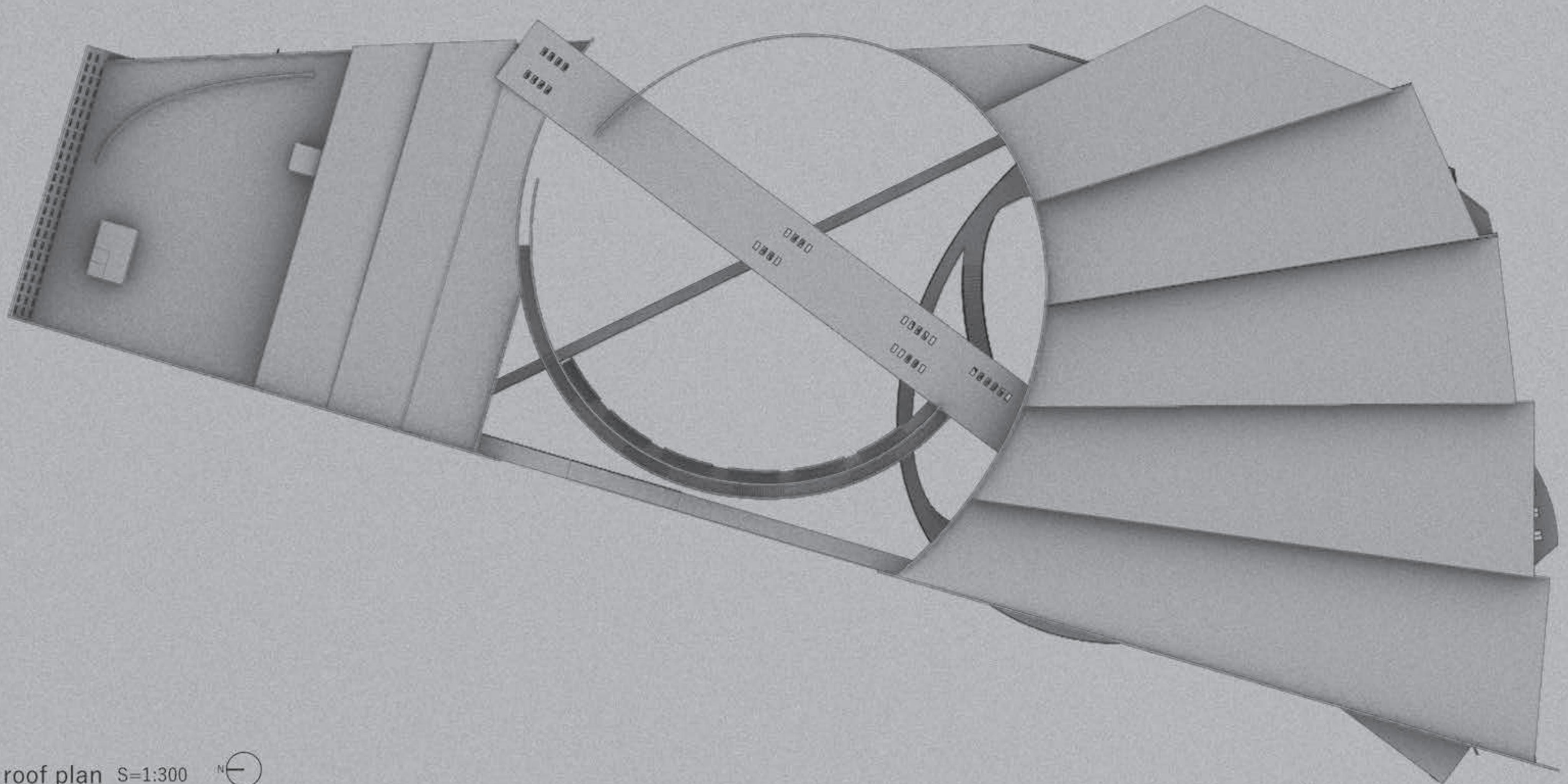
大阪府・大阪市『あいりん総合センター跡地等利活用にかかる基本構想(活用ビジョン)』より抜粋

| 日雇い労働者<br>・路上生活者<br>多目的広場 | その他住民や職員<br>多目的ホール<br>相談窓口 | 外部の人間<br>コワーキングスペース<br>地域の仕事を学ぶ場<br>地域の歴史等の伝承 |
|---------------------------|----------------------------|---|
| 多目的ホール<br>相談窓口            | 多目的ホール<br>相談窓口             | コワーキングスペース<br>地域の仕事を学ぶ場<br>地域の歴史等の伝承          |
| ホームレス就業支援センター             | コワーキングスペース                 | 図書施設<br>商業施設                                  |
| 職業訓練所                     | 図書施設                       | 図書施設<br>商業施設                                  |
| 図書施設<br>売店<br>シャワー        | 商業施設<br>会議室<br>事務所<br>託児所  | 会議室<br>事務所<br>託児所                             |

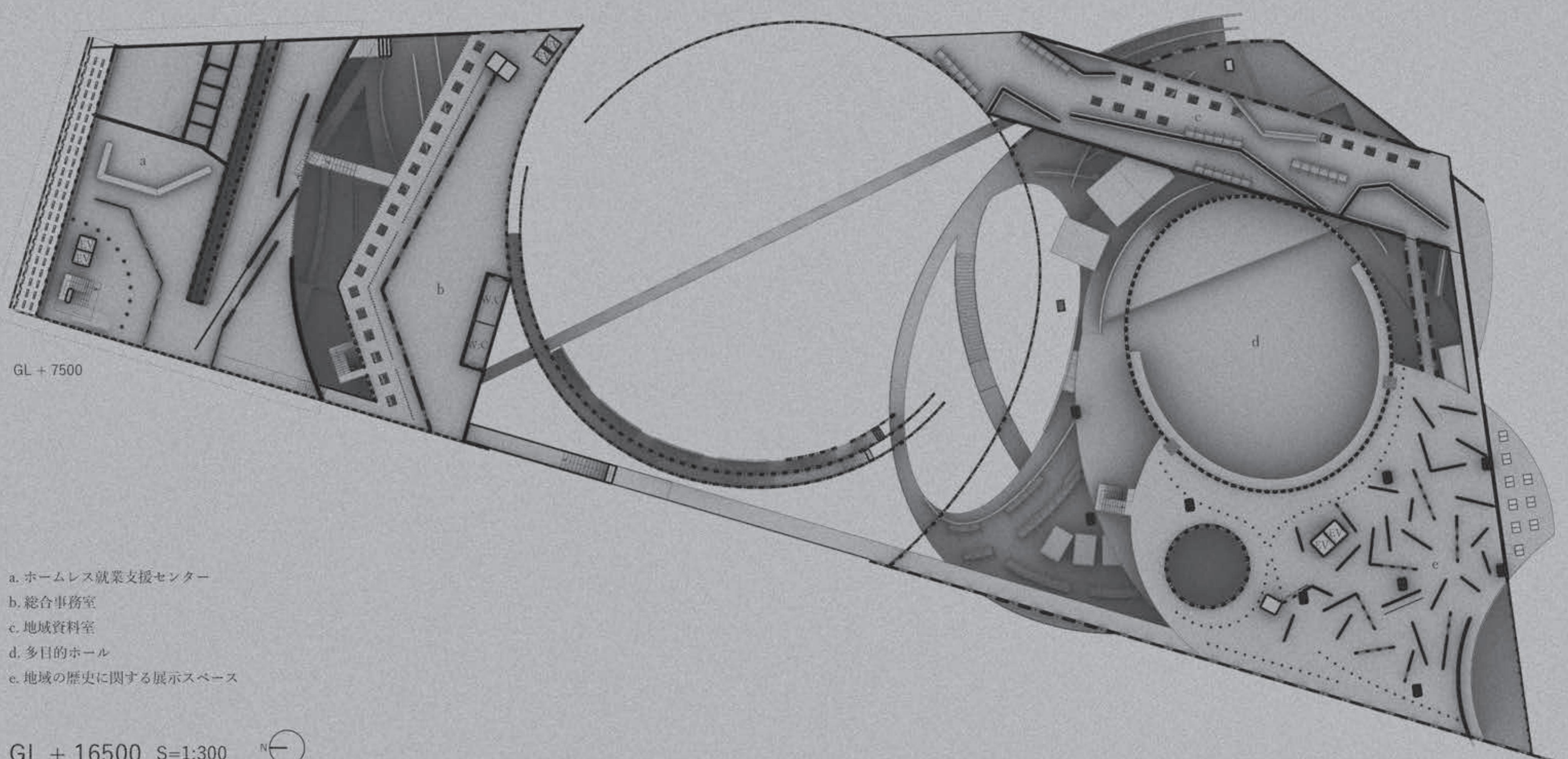
利用者の分類と機能の対応図





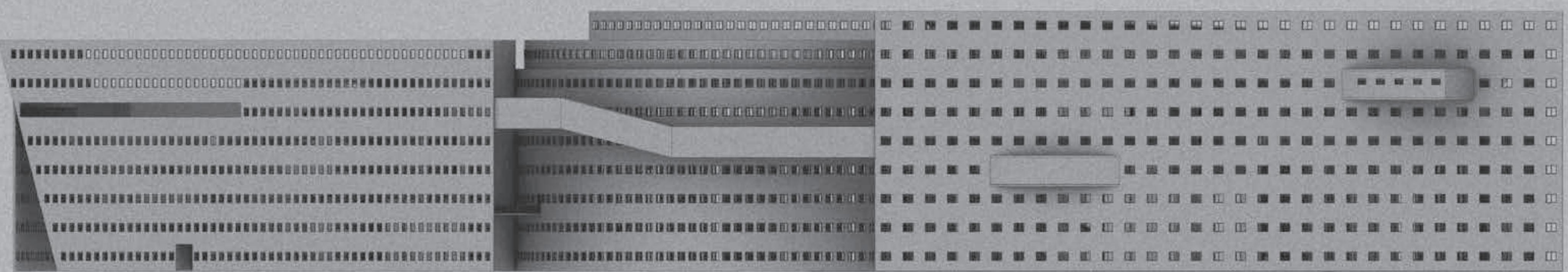


roof plan S=1:300 N

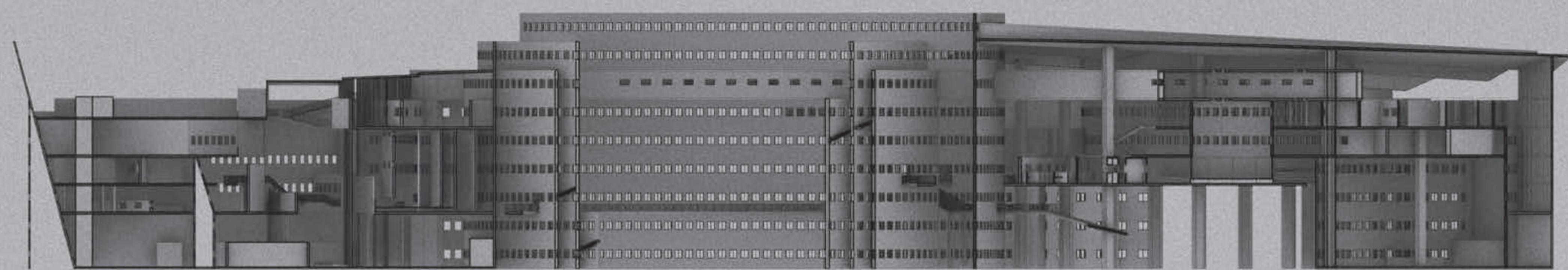


a. ホームレス就業支援センター  
b. 総合事務室  
c. 地域資料室  
d. 多目的ホール  
e. 地域の歴史に関する展示スペース

GL + 16500 S=1:300 N



west elevation S=1:300



section S=1:300

